

人物誌の枠を拡大し、需用の多い資料を選定。  
学校・公共図書館などの基本図書。

# 日本人物誌選集

全8巻 紀田順一郎 監修・解説



クレス出版 発行

## 刊行の辞

書誌研究家

紀田順一郎

「人物出でよ」ということが時代の要請になって久しい。人格性と独創性をもって一つの分野を開拓し、社会に大きな影響を与えるような人物は、近年急速に後を絶ちつつあるように思われる。

改めて強調するまでもなく、日本の近世後期から近代にかけてこのような人物が各界にわたって輩出、社会に大きな足跡を残したことは、幾多の文献資料によって窺うことが可能である。いわゆる人物誌が明治期を中心とする前後数十年間に刊行されていることは偶然ではない。現在の人物史料の多くは個々の研究文献ないしは人物情報として刊行され、往時のような大きな分野を鳥瞰する総合的な人物誌は、ほとんど見かけなくなっている。

一方、参照資料としての人物誌に対する需用は絶えることなく続いている。正確な人物データは地名情報などと並んで、学校、研究機関、図書館等における資料収集の根幹をなすもので、その充実性が普段に求められることはいままでもない。

しかし、この種文献の需用がいよいよ高まっているにもかかわらず、昨今の出版界の制約により、定評ある資料ですら手に取りにくくなっていることは遺憾とするほかはない。そもそも人物誌は、単なる便宜的な資料性を超え、ジャンルそのものを文学や書誌学の業績として研究対象とすることがあってよいと思われるが、戦前から戦後にかけての一時期を例外として、いまや全く見られなくなった。対象が膨大すぎる上に、人物そのものに対する価値観の変動が包括的な研究を阻んでしまったといえよう。

その結果、学校・公共図書館などでは基本図書としていかなる人物誌を備えるべきか、教育の現場でどのような書物を探りあげるべきか、戸惑いを感じることも多くなっている。近年は人物伝や人名事典類も多数出版されているが、あるものは簡略に過ぎ、あるものは専門的に過ぎて総合性を考慮しているとはいえない。

本選集はここに思いをいたし、狭義の人物誌の枠を多少拡大し、研究者間に需用の多い資料を選定したものである。これらを参照することにより、定評ある人物誌をはじめ、とかく見落とされがちな資料を概観し、多様な観点から時代の全体像を把握し得るはずである。解題にも意を用いているので、原著についての正確な知識を得ることができよう。

著名な人物はいうにおよばず、通常の人名事典ほかのツールでは絶対に挙げられることのない人名を含む本選集は、どの一冊にも著者の個性と時代色を色濃く感じさせ、通読することによって必ずや新たな発見があることと思われる。いうところの歴史認識の形成にも資することを期し、本集成を世におくるものである。

第1巻

明治人物評論

鳥谷部春汀著／明治31年／博文館

〔内容〕 白根専一、板垣退助、福沢諭吉、山縣有朋、徳富猪一郎、尾崎行雄、田口卯吉、井上馨、末松謙澄、伊藤巳代治、近衛篤麿、青木周蔵、星亨、外山正一 ほか

続明治人物評論

鳥谷部春汀著／明治33年／博文館

〔内容〕 田中正造、犬養毅、山本権兵衛、自由党の人物、進歩党の人物、日本の外交家、佐久間貞一、北里博士 ほか

第2巻

明治人物評論

文藝倶楽部／明治39年／博文館

〔内容〕 中根香亭、田中正造、柴田芳洲、中村芝翫、守田勘弥、橋屋圓太郎、豊竹生駒太夫 ほか

現代人物管見

横山健堂著／明治43年／易風社

〔内容〕 大隈伯、平田東助、大石正巳、大浦兼武、後藤新平、犬養毅、堀田正養 ほか

第3巻

文士の側面裏面

武野藤介著／昭和5年／千倉書房

〔内容〕 ゴシップ集、テング・オプ・テングス、紀行文集、名作モデル物語

文壇の人・舞台の人漫談・思ひもよらぬ話

本間晴編／昭和5年／田中書房

〔内容〕 谷崎潤一郎、佐藤春夫、里見弴、山本有三、藤森成吉、真山青果、志賀直哉、菊池寛、宇野浩二、倉田百三、中村武羅夫、正宗白鳥、徳田秋声、前田河広二郎、島崎藤村、吉衛門、菊五郎、猿之助、井上正夫、羽左衛門、梅幸、幸四郎、鷹治郎、歌右衛門 ほか

第4巻

日本老農伝

大西伍一著／昭和8年／平凡社

〔内容〕 石川理紀之助、森川源三郎、広田亀次、半谷清寿、宮崎安貞、貝原益軒、佐藤信淵、大倉永常、大原幽学、田中芳男、津田仙、上杉鷹山、二宮尊徳 ほか

超文壇のその生活態度

谷崎潤一郎氏は人も知る通り今は兵庫の岡本に住んでゐる。滅多に東京へも出て来ない。最近では芥川氏の告別式に出て来た位なものだらう。文人で相往來してゐるのは、志賀直哉、佐藤春夫、今東光氏位なもので、文壇といふやうなものは全然無視しきつて生活してゐる。それも現在のやうに有名になつてから、さうなつたのではなく、文人として世に出た當初から終始一貫、文壇無視で押通して来たのだから痛快である。それでゐる無視された文壇は、谷崎氏を無視し返すどころか、鬱然たる大家として敬意を拂つて来たのだから、一層痛快である。實際、谷崎氏ほど痛快に文壇を無視し切つてのし上げた人はこれまであるまい。第一、東京に住まないのだから面白い。東京に住んでゐるころでも、文壇つきあひといつたやうなものは爪の垢ほどもしなかつた。海港横濱の風物が気に入つたら忽ち横濱へ移り住んでしまふし、地震後は京阪へ飛んで行つて、京都から今は岡本に住んでゐる。文壇

四、淺尾工左衛門



三世淺尾工左衛門男、右圖次の門に入つて市川鬼丸といふ。

工左衛門と云ふ名前は、昔は大きく光つてゐた名前だといふ。成程大きな役者らしい名前である。一體衛門のつく名前は、何となしにえらさうに思はれる。今でも歌右衛門、仁左衛門、羽左衛門、何れも好い役者である。尤も團右衛門、歌右衛門、薪左衛門、例外はあらうが、全體何衛と云ふ役者には、大きな敵役が多いやうである。中島三甫右衛門、哥七、梅玉の兩歌右衛門、七代の仁左衛門、何れも敵役で名高い古名優である。今の工左衛門は、何代目になるか知らないが、藝の質から謂つて、何うも工左衛門と云ふ柄ではないやうだ。藝の質を謂へば、今の歌右衛門などは、最も柄に無い名ではあるが、これは、役者の總巻軸ともいふべき地位に居るに免じて、先づ文句ないにしなければならぬ。しかし工左衛門の工左衛門は少々困る。工左衛門と云ふ名が昔大きく光つてゐただけに變である。勿論恰爾でない賢太郎もあらうから、理窟から謂へば、左や右は無い譯だが、感じ

第5巻

役者芸風記

三島霜川著／昭和10年／中央公論社

〔内容〕 大正初めに活躍していた役者八十九名の論評

第6巻

近代美人伝

長谷川時雨著／昭和11年／サイレン社

〔内容〕 マダム貞奴、樋口一葉、鹿島惠津子、春本万竜、茂木松子、松下南枝子、竹本綾之助、豊竹呂昇、鴻池福子、芳川鎌子、銀子夫人、大橋須磨子、芝露子、一世お鯉、藤蔭静枝、松井須磨子、宮崎光子、平塚明子、柳原燐子、九条武子

第7巻

日本の産業指導者

田村栄太郎著／昭和19年／国民図書刊行会

〔内容〕 藤川三溪、関沢明清、村田保、郡司成忠、大越作右衛門、仲家太郎吉、石川千代松、菊地親、青砥武平次、李野甚七、小野友五郎、田中鶴吉、宮崎安貞、芳賀寛助、表森田庄五郎、森川源三郎、梅原寛重、馬場重久、上垣守国、田島弥平、尾高厚忠、名和靖、高峰讓吉、大関土佐守増業、吉田龜寿、井上省三、金沢兼光、村松良肅、武田成章、林藤左衛門、近藤真琴、小幡篤次郎、森有礼、佐田介石、菊地虎太郎、前田留吉、井戸平左衛門、早川八郎左衛門、徳川斉昭、前田正名 ほか

第8巻

異国遍路死面列伝、旅芸人始末書

宮岡謙二著／昭和29年／私家版

〔内容〕 パリ客死第一号、郷愁の肺癆、外交官過去帖、仏跡をめぐる僧侶たち、モンパルナスに眠る人びと、陸海軍競死録、マドロスの悲しみ、失われた艦船、無縁塚供養、捨て石の拓土、雑死切張帖、志士間諜行、骨寺の地下堂、旅芸人の先駆者たち、慶応三年のパリ万博、柳橋芸者の仏京行状記、明治初期の足跡拾遺、太神楽海を渡る、川上音二郎貞奴洋行日誌、欧州を流浪する鳥森芸妓、英京に巣喰う芸人群像

明治会見記

樋口配天著／昭和35年／理論社

〔内容〕 板垣退助、三島中州、浜尾新、スエン・ヘデン、長瀬鳳輔、森鷗外、青山胤通、山川健次郎、加藤吐堂、宮田修、幸田露伴、高村光雲、新海竹太郎、川端玉章、三宅雪嶺、戸川残花、和田垣謙三、伊東忠太、芳賀矢一、小西信八、中島信虎、丘浅次郎、大瀬甚太郎、中島徳蔵、尾上柴舟、姉崎正治、島田三郎、島崎藤村、徳田秋声、藤岡作太郎、丸山晩霞、堀川光山、井上哲次郎、福来友吉

三四、近藤真琴（航海術・商船）

近藤真琴は、通稱を誠一郎・實名を真琴・字を微音・芳隣といひ、志摩國鳥羽藩稻垣氏の徒士近藤珍命の二男として、天保三年九月二十四日を以て、江戸麴町の鳥羽藩邸に生れた。兄は夭折し、また四歳の時父を喪つた。母は橋本氏の出、誠子といつたが、髪を剃り、髪を削るのは良人の冥福を祈るためでない、此兒を成立させるためであるといつたといふ、如何に彼のために苦勞したかゞ肯ける。八歳から漢學を修めたが、嘉永年間米船浦賀に来るに及んで、意を決して蘭學に志した、時に二十三歳である。安政元年彼れ二十三歳の時、岸和田藩醫高松讓庵に就いて和蘭文典・究理書を學び、同五年村田藏六の塾に通學し、専ら和蘭兵書を學んだ。文久二年藩主の命によつて、藩地鳥羽に行つたが、領分の海岸、九鬼嘉隆の事蹟等に鑑みて悟る所があり、こゝに於て海軍並に航海の術に志すに至つた。同三年一月江戸に歸り、幕府の矢田堀景藏・荒井郁之助に就いて航海術を學び、幕府の軍艦操練所に通學し、算數を學びはじめたのも、この歳のことである。蘭人ピラルの航海書を譯して、この術に志す者の便宜をはかり、爲めに真琴の名は世に知られるやうになつた。同年十二月幕府軍艦操練所

島田 三郎 ☆ 革新会への期待

島田三郎は、明治時代の高潔なる政治家であった。立板に水を流すがごとき雄弁は有名なものであり、衆議院の名議長として、名声を博したものである。彼は始め、日本最初の新聞のものである東京横濱毎日新聞（後の毎日新聞）が、沼守一によつて創立されるや、入社して記者となり、肥塚竜、波多野伝三郎、高木正年等と共に健筆を振つてゐた。後に、彼は毎日の経営と共に社長となり、正義を標榜して時の政權と戦つてきたのであつた。毎日新聞社は、今の銀座四丁目の電車交差点で、三越支店のある処は、当時中央新聞社であつたが、その向かい合つてゐる今のピヤホールは、毎日新聞社のあつたところである。古い建築で、二階に上る階段が狭くて暗く、それに急であつた。島田が来ると足音で分かる、と社の人は言つてゐた。それは島田の足音が早いからとのことであつた。

彼は家庭に恵まれなかつたが、敬虔なクリスチャンであり、混濁せる政界の君子人であつた。私は、われわれ青年が会合のときは、彼から会頭になつてもらつてゐるので、時々逢つてゐるが、一度番町の彼の邸宅を訪うたとき、対座していると、猫がきて彼の膝のうえにあがつて丸

# 日本人物誌選集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

- 第1巻 明治人物評論、統明治人物評論 定価 8,500円(税別) ISBN978-4-87733-376-8
- 第2巻 明治崎人伝、現代人物管見 定価14,000円(税別) ISBN978-4-87733-377-5
- 第3巻 文士の側面裏面、文壇の人・舞台の人 漫談・思ひもよらぬ話  
定価16,000円(税別) ISBN978-4-87733-378-2
- 第4巻 日本老農伝 定価15,000円(税別) ISBN978-4-87733-379-9
- 第5巻 役者芸風記 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-380-5
- 第6巻 近代美人伝 定価11,000円(税別) ISBN978-4-87733-381-2
- 第7巻 日本の産業指導者 定価10,000円(税別) ISBN978-4-87733-382-9
- 第8巻 異国遍路 死面列伝・旅芸人始末記、明治会見記  
定価 9,500円(税別) ISBN978-4-87733-383-6

A5判/上製函入/クロス装 揃定価94,000円(税別)

平成19年9月末日刊行 ISBN978-4-87733-384-3(セット)

# 近代世相風俗誌集 全9巻

紀田順一郎 編・解説

- ① 東京風俗志 上中下巻 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-303-7
- ② 明治初年の世相 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-304-5
- ③ 太政官時代 定価16,000円(税別) ISBN4-87733-305-3
- ④ 江戸と東京 風俗野史 定価12,000円(税別) ISBN4-87733-306-1
- ⑤ 明治時代の風俗 定価10,000円(税別) ISBN4-87733-307-X
- ⑥ 日本風俗史 定価 6,000円(税別) ISBN4-87733-308-8
- ⑦ 銀座百話、銀座・築地物語絵巻 定価11,500円(税別) ISBN4-87733-309-6
- ⑧ 明治詩話 定価 7,500円(税別) ISBN4-87733-310-X
- ⑨ 明治少年文化史話 定価 8,000円(税別) ISBN4-87733-311-8

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-312-6(セット)

# 精選社会風俗資料集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

- 第1巻 変態十二史 (一)
- 第2巻 変態十二史 (二)
- 第3巻 変態十二史 (三)
- 第4巻 変態文献叢書 (一)
- 第5巻 変態文献叢書 (二)
- 第6巻 軟派十二考
- 第7巻 明治性的珍聞史 ほか
- 第8巻 日本性的風俗辞典

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-347-9(セット)

# 事物起源選集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

- ① 雅俗便覧 日本事物起原 金子 晋 編  
事物原始考 松本 茂平 著 定価 8,200円(税別) ISBN4-87733-231-6
- ② 増訂 明治事物起原 石井 研堂 著 定価19,000円(税別) ISBN4-87733-232-4
- ③ 社会事物 起原と珍聞 植原 路郎 著  
座談の泉 事はじめ・物はじめ 植原 路郎 著 定価 9,500円(税別) ISBN4-87733-233-2
- ④ 日本文化史 事物起源辞典 雨宮信一郎 著 定価 8,000円(税別) ISBN4-87733-234-0
- ⑤ 農業事物起原集成 大野 史朗 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-235-9
- ⑥ 真説 事物起原大辞典 清教社編集部 編 定価14,000円(税別) ISBN4-87733-236-7
- ⑦ 日本事物起原誌 植原 路郎 著 定価 5,600円(税別) ISBN4-87733-237-5
- ⑧ 日本文化 事物起源考 速水 建夫 著 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-238-3

揃定価88,300円(税別) ISBN4-87733-230-8(セット)

# 事物起源選集 第二回全5巻

紀田順一郎 監修・解説

- ⑨ ものしり事典 言語、文化篇 日置 昌一 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-259-6
- ⑩ ものしり事典 風俗、女性篇 日置 昌一 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-260-X
- ⑪ ものしり事典 芸能娯楽篇 日置 昌一 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-261-8
- ⑫ ものしり事典 政治、宗教篇 日置 昌一 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-262-6
- ⑬ ものしり事典 飲食、医薬篇 日置 昌一 著 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-263-4

揃定価65,000円(税別) ISBN4-87733-258-8(セット)

# 近代名著解題選集 全7巻

紀田順一郎 監修・解説

- ① 世界名著解題 定価12,000円(税別) ISBN4-87733-328-2
- ② 名著解題大辞典 定価15,000円(税別) ISBN4-87733-329-0
- ③ 日本文学書誌 定価20,000円(税別) ISBN4-87733-330-4
- ④ 書物から見た明治の文芸 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-331-2
- ⑤ 鎖国時代 日本人の海外知識 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-332-0
- ⑥ 総合編年 近代文学事典 定価 8,000円(税別) ISBN4-87733-333-9
- ⑦ 近代日本名著解題 定価10,000円(税別) ISBN4-87733-334-7

揃定価87,000円(税別) ISBN4-87733-335-5(セット)

# 日本年表選集 全八巻

日置 英剛 編・解説

- 第一巻 泰平年表、和漢年契、日本金石年表 定価 9,500円(税別) ISBN4-87733-265-0
- 第二巻 日本年表、新撰東西年表、万国大年表 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-266-9
- 第三巻 古今人物年表、国史研究年表、歴史日鑑 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-267-7
- 第四巻 日本史籍年表 定価15,000円(税別) ISBN4-87733-268-5
- 第五巻 帝諡考、元号考 定価12,500円(税別) ISBN4-87733-269-3
- 第六巻 日本文化史年表 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-270-7
- 第七巻 史籍年表、新撰年表、新撰洋学年表 定価13,500円(税別) ISBN4-87733-271-5
- 第八巻 日本百科年表 定価11,500円(税別) ISBN4-87733-272-3

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-264-2(セット)